



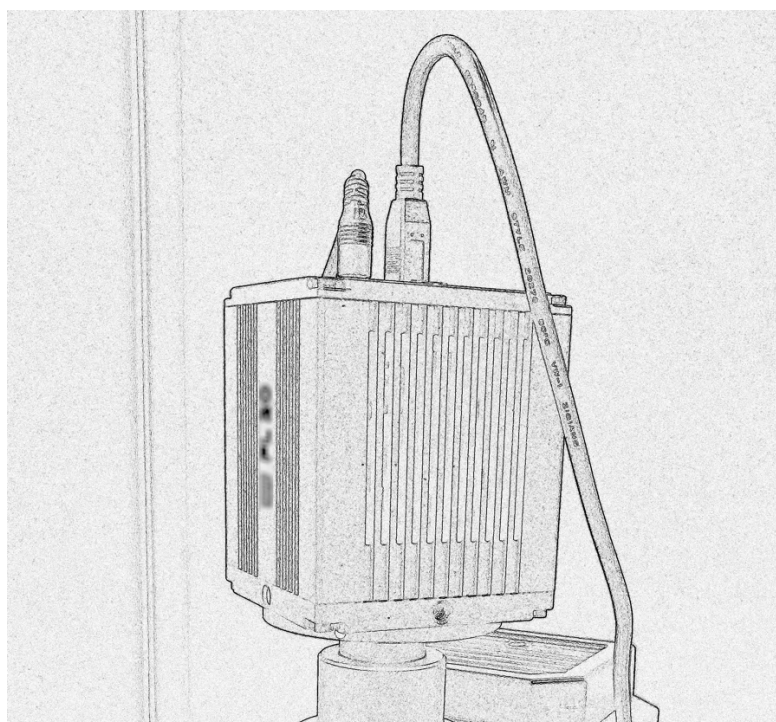
島根大学 研究・学術情報本部総合科学研究支援センター

< センター通信 >

第 49 号

2025(令和 7)年 7 月発行

Interdisciplinary Center for Science Research, Shimane University



記事内容

◇	記事内容	1
◇	総合科学研究支援センター活動概要報告	
	遺伝子機能解析部門	2
	実験動物部門	5
	生体情報・RI 実験部門	9
	物質機能分析部門	11
◇	編集後記	14

<設備・機器の修理や新設>

部門 website に機器一覧、機器オンライン予約、お知らせ、申請書類ファイル、セミナー記録、技術講習会活動記録、ニュース、会議・講習会参加記などが掲載されています。最新情報は随時更新しています。ぜひご覧ください。 <http://shimane-u.org/index.htm>

共同利用機器の新しいオンライン予約システムの運用が開始されました。ご利用の際は、島根大学の Microsoft 365 アカウントへのサインインが必要です。また、機器のマニュアルをご覧ください。利用代表者のユーザーID およびパスワードが必要です。詳細は遺伝子機能解析部門事務室までお問い合わせください。新たにオンライン予約の対象としたい機器がございましたら、ご相談ください。

共同利用機器に NanoDrop One Spectrophotometer (ND-ONE-W) が導入されました。オールインワン顕微鏡にタイムラプスモジュール (BZ-H3XT) が搭載されました。実体顕微鏡 (蛍光ユニット搭載) に冷却カラーCMOS カメラ (FL-20) が搭載されました。全自動元素分析装置 (vario MICRO cube) の共同利用が開始されました。DNA シークエンサーGenetic Analyzer 3500 が設置されました (生物資源科学部から移設)。

当部門は中国地方バイオネットワーク連絡会議における島根大学の窓口業務および共焦点レーザー顕微鏡受託解析サービスを担当しています。島根大学の構成員は、中国地方の5国立大学法人の遺伝子関連施設が実施している受託サービスを特別料金で利用することができます。詳細はこちら (<https://chugoku-bionet.hiroshima-u.ac.jp/index.html>) をご覧下さい。

令和7年4月より、蜂谷卓士准教授が遺伝子機能解析部門長 (RI 実験施設長) に就任しました。

<行事>

利用説明会を開催しました。

令和7年4月8日 (火) ~11日 (金) 「オンライン予約システム説明会」

令和7年4月16日 (水) 「2025年度 遺伝子機能解析部門利用者説明会 (第1回)」

令和7年4月21日 (月) 「DNA シークエンサー利用説明会 (新規利用者対象)」

令和7年4月24日 (木) 「2025年度 遺伝子機能解析部門利用者説明会 (第2回)」

教育訓練を開催しました。

令和7年5月8日 (木) 「放射線業務従事者新規登録者教育訓練」

令和7年4月23日 (水) ~5月31日 (土) 「放射線業務従事者再教育訓練」 (オンデマンド)

<公開講演会開催>

令和7年1月31日 (金) 島根大学総合科学研究支援センター公開講演会
(第279回 遺伝子機能解析部門セミナー)

「分子カプセルの食品利用」吉清 恵介氏 (島根大学生物資源科学部)

<技術講習会開催>

・第185回 令和7年1月29日 (木)

「オールインワン蛍光顕微鏡 (Keyence BZ-X700) タイムラプスモジュール (BZ-H3XT) 取扱説明会」

・第186回 令和7年4月9日 (水)

「全自動元素分析装置 (vario MICRO cube) 共同利用説明会」

- ・第187回 令和7年4月16日（水）
「冷却カラーCMOS カメラ (FL-20) 取扱説明会」
- ・第188回 令和7年4月23日（水）
「NanoDrop One Spectrophotometer (ND-ONE-W) 取扱説明会」
- ・第189回 令和7年5月2日（金）
「NanoDrop One Spectrophotometer (ND-ONE-W) 取扱説明会（第二回）」
- ・第190回 令和7年5月14日（水）
「トランスプロット Turbo 転写システム取扱説明会」
- ・第191回 令和7年5月15日（木）
「次世代秒速破碎粉碎機マルチビーズショッカー取扱説明会」
- ・第192回 令和7年5月30日（金）
「全自動元素分析装置（vario MICRO cube）サンプル調製説明」
- ・第193回 令和7年6月4日（水）
「オールインワン蛍光顕微鏡（KEYENCE BZ-X700）蛍光フィルター取扱説明会」
- ・第194回 令和7年6月6日（金）
「オールインワン蛍光顕微鏡（KEYENCE BZ-X700）操作説明会 15」
- ・第195回 令和7年6月26日（木）
「アミノ酸分析システム（日立ハイテック）操作説明会」
- ・第196回 令和7年6月27日（金）
「全自動元素分析装置（vario MICRO cube）サンプル調製説明会」

<セミナー開催>

- ・令和7年1月31日（金）第279回 遺伝子機能解析部門セミナー
（島根大学総合科学研究支援センター公開講演会）
「分子カプセルの食品利用」吉清 恵介氏（島根大学生物資源科学部）
- ・令和7年5月23日（金）第280回 遺伝子機能解析部門セミナー
「AT-AC イントロンのスプライシングを担うシロイヌナズナ DROL1 遺伝子の研究」
鈴木孝征氏（中部大学応用性鬱学部）

<会議等参加>

- ・令和7年3月18日（火）中国地方バイオネットワーク連絡会議 オンライン（中川，蜂谷）
- ・令和7年4月25日（金）第3回山陰RIネットワーク会議 島根大学（蜂谷，山根）

<兼任教員>

- ・清水英寿（生物資源科学部）（令和6年4月～令和8年3月）
- ・西村浩二（生物資源科学部）（令和6年4月～令和8年3月）
- ・仲村康秀（エスチュアリー研究センター）（令和6年4月～令和8年3月）
- ・飯田拡基（総合理工学部）（令和7年4月～令和9年3月）
- ・倉田健悟（生物資源科学部）（令和7年4月～令和9年3月）

<その他>

- ・論文

Monden K., Otomaru D., Suzuki T., Nakagawa T., Hachiya T. (2025) *Arabidopsis* root-type ferredoxin:NADP(H) oxidoreductases are crucial for root growth and ferredoxin-dependent processes. Biochemical and Biophysical Research Communications, 751: 151448. <https://doi.org/10.1016/j.bbrc.2025.151448>

実験動物部門

<令和7年度実験動物慰霊祭>

開催日時：令和7年5月2日（金）14:00 – 15:00

場所：島根大学出雲キャンパス 動物慰霊碑前

令和7年5月2日に出雲キャンパス動物慰霊碑前にて実験動物慰霊祭を執り行いました。多くの研究者が参列し、動物実験の関係者を代表して実験動物部門長（橋本）から動物実験に供された実験動物に対する感謝の意として「慰霊の言葉」が読み上げられました。以下にその「慰霊の言葉」を掲載します。

慰霊の言葉

令和7年度島根大学実験動物慰霊祭にあたり、慰霊の言葉を述べさせていただきます。

人類の生活の質の向上のためには生命科学研究および医科学研究を発展させることが不可欠です。近年、多くの新しい動物実験代替法が開発され、経済協力開発機構を基盤とする国際機関においては代替法の利用に関する世界的な取り組みがあり、また、アメリカ食品医薬品局においても新薬の申請のための動物実験を代替法によるデータで置き換えることを推奨するようになってきました。しかし、いまだ動物実験を完全に行わずに研究を進めることはできません。島根大学においては、人類の健康増進、疾患治療を目指した研究および教育のため、令和6年度も数多くの動物実験が実施されました。具体的には、本学で動物実験に関わる研究者および飼養者として、松江・出雲両キャンパス合わせて教職員、学生など245名が登録され、動物実験のために犠牲になった動物数は、マウス15,273匹、ラット1,395匹、ウサギ20羽、モルモット9匹、カメ類18匹にもなります。一昨年度に比べ、マウスは約1,200匹、ラットは約50匹の減少とはなりましたが、依然多くの命の上に本学の研究および教育が行われています。本学の研究および教育のために犠牲となった動物の諸霊に対して、ここに謹んで感謝の誠を捧げます。

さて、生命科学研究あるいは医科学研究に携わる私たち研究者は、信頼性の高い実験を行わなければなりません。そのためには、実験動物の飼育環境や実験環境を適正に維持し、高い倫理観を持って継続的に努力することが不可欠です。昨年11月には外部検証により本学の実験動物の飼育や動物実験の実施状況について客観的な評価を受けました。検証終了後には大谷学長にご出席いただき講評していただきました。総合評価は「概ね良好で努力は認められるが、適切な飼育のために改善の余地がある」とされ、改善を要する点を多く指導さ

れました。その中には、動物実験や実験動物の維持・管理の根幹に関わる重要な指摘もあり、関係者全員で意識を改めレベルアップを図っていかなくてはなりません。

こうした多くの指摘を受けた理由として、第1に今回は9年ぶりの外部検証ということもあり、現在遵守すべき法令やガイドラインが前回から大きく変わって、要求事項が格段に厳しくなっていることがあげられます。第2として、人員や予算の制限により、厳しい要求事項に容易には対応できなくなってきたことがあります。そして第3として、そうした期待や要求を感じつつも、現実には時代の変化に十分対応することができなかったことが重要ではないかと考えられます。この数年間で、利用者の皆さんのご協力により、動物実験施設の運営に関して少なからず改善／変革を図ってまいりました。今回の指摘は、永年島根大学で動物実験を行ってきた研究者や職員にとって、このような期待や要求の変化を大きく感じられ、戸惑いの連続であったことと推察いたします。しかしながら、社会から要求される期待水準はさらに高くなっており、これまでの改善努力ではまだ不十分であり、その水準にまだ到達していないと判断されたということです。現状を放置すれば、今後島根大学で実施された生命科学研究および医科学研究は、実験動物を犠牲とした命の重みに見合った価値がないと世論から評価されてしまいかねません。そこで、島根大学の研究を他の研究機関に負けないよう、そして犠牲になった実験動物の御霊に報いるためにも、世界に恥じない素晴らしい研究施設となるよう改善のための努力を継続して参ります。これまで以上に研究者や職員の負担も大きくなることが懸念されますが、必ず成し遂げなくてはなりません。この決意を島根大学の動物実験施設を代表してお誓いたします。

最後に、繰り返しとなりますが、犠牲となった尊い動物たちの御霊に対して、改めて心から感謝と哀悼の誠を表すとともに、実験動物の福利並びに倫理基準にのっとり、研究者自らの良心に基づいて、医学および生命科学研究のために必要最小限の動物数で、最大限の効率を生む実験系の確立と推進に努力していくことをお誓いし、慰霊の言葉とさせていただきます。

令和7年5月2日

島根大学 研究・学術情報本部
総合科学研究支援センター実験動物部門
部門長 橋本 龍樹



令和7年5月2日、実験動物慰霊祭にて多くの実験動物実験者が献花をすると共に実験動物に感謝の意を示し、動物実験の適切な実施を誓いました。

<外部検証の総評>

文部科学省の指導に基づき、動物実験施設の運営について令和6年度11月25、26日に第三者機関（実験動物学会の外部検証事業）による外部検証を受けました。令和7年3月にその最終結果報告を受領しましたので、そのうちの総評を掲載します。

検証の総評

島根大学は、教育の拠点として伝統ある旧島根大学と旧島根医科大学が統合された総合大学で、7学部、5研究科からなる。動物実験は主に出雲キャンパスにある医学部及び松江キャンパスにある生物資源科学部で行われている。2つのキャンパスには、環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下「飼養保管基準」という。）」に基づく実験動物の飼養保管施設が4か所設置され、動物実験は、文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下「基本指針」という。）」に則した「島根大学動物実験規則（以下「動物実験規則」という。）」の下で概ね適正に実施されている。自己点検・評価は毎年実施され、その結果が大学のホームページに掲載されている。飼養保管施設の掲示物や一部のマニュアル、取扱説明などは英文を併記しており、留学生にも理解しやすい工夫がなされている。一方、動物実験計画書の審査体制の規則への明記、及び審査システムの省力化、並びに一部の飼養保管施設での実験動物の飼養保管の体制に改善の余地がある。動物実験は概ね支障なく実施されており、学長の責務の下、適切な動物実験の実施体制をさらに強化されたい。

今回の外部検証は、9年ぶりの受検となります。この期間に法令・指針や業界の要求事項は大きく変わり、厳しい対応が必要とされています。本学では対応が十分でない点もあり、外部検証の検証委員から、数多くの指摘やアドバイスをいただきました。本学の動物実験を

一層適切に実施していくために、改善を継続していく必要があります。動物実験を行っている研究者の方々には、今後ともご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

<松江キャンパスのヒツジ飼育施設の改善>

松江キャンパスでは、現在畜産に関する教育・研究のためにヒツジを飼育しています。昨年の外部検証においてヒツジの飼育に関して、施設と飼育方法について指摘を受けました。これに対して、生物資源学部と対応を検討し、施設の改善を進めてまいりました。令和7年4月に松江家畜保健衛生所の担当官による施設の現地検査を受けました。当該担当官から、ヒツジの飼養施設として適切な対応がとられていると判断をいただきました。

<飼育管理費等の料金改定と新サービスの提供>

令和7年6月1日より、施設利用料金及び実験動物飼育管理費の料金を改定しました。詳細は実験動物部門 HP に掲載されている料金表（学内関係者のみ閲覧可能）
<https://muw.med.shimane-u.ac.jp/animals/file/R7price.pdf> をご確認ください。

マウス・ラット用の巣材（環境エンリッチメント）を販売にすることにいたしました。これまで無料で配布していましたが、昨今の物資値上げの影響で無料配布は困難となりました。ご理解をお願いします。実験動物の福祉向上、繁殖効率向上、実験の再現性向上に効果があると期待されますので、是非ともご使用ください。また、精子・受精卵凍結など生殖工学関連のサービスを開始いたします。興味のある研究者は、実験動物部門の担当者までご相談ください。

<マニュアル・提出書類の様式について>

研究者が行う実験動物の飼養管理が適切に実施できるよう「動物実験施設の使用方法並びに飼育管理方法のマニュアル」を作成しました。また新規に動物実験を始められる際に提出していただく動物実験計画申請書を始めとした各種書類やその記入方法、承認までの流れにつきましても実験動物部門 HP 「<https://www.med.shimane-u.ac.jp/exanimal/>」の学内専用ページに掲載しておりますのでご活用ください。

◇ 生体情報・RI 実験部門 ◇

<令和7年 1月～令和7年 6月 行事報告>

- 1月 30日 第64回生体情報・RI 実験部門 運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～17:15
- 2月 13日 ネッパジーン株式会社 遺伝子導入装置 NEPA21 Type II 使用者説明会
場 所：共同研究棟2階 原子吸光実験室
時 間：14:00～15:00
- 2月 28日 平山製作所 フタ自動開閉式ハイクレーブ HG-50 IILB 使用者説明会
場 所：共同研究棟2階 原子吸光実験室
時 間：15:00～15:30
- 3月 19日 第65回生体情報・RI 実験部門 運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～17:20
- 5月 13日 部門説明会（オリエンテーション）
生体情報・RI 実験部門全体の施設見学
時 間：14:00～15:00, 15:00～16:00, 17:00～18:00
- 5月 28日 第66回生体情報・RI 実験部門 運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～17:10

<令和7年 7月以降 行事予定>

- 7月 24日 第67回生体情報・RI 実験部門運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～17:15
- 開催日未定 放射線業務従事者の登録更新教育訓練（昨年度10月開催）
詳細未定

<放射線取扱主任者定期講習 受講報告>

RI 実験施設の主任者に選任された第1種放射線取扱主任者は3年に1回定期講習を受講する必要があります。今回、甲高彩華が受講しました。

月 日：令和7年3月14日

場 所：公益財団法人 原子力安全技術センター（Web 開催）

内 容：（1）法に関する課目

（2）放射性同位元素又は放射線発生装置の取扱いに係る事故が発生した場合の対応に関する科目

（3）放射性同位元素又は放射線発生装置の取扱い及び使用施設等又は廃棄物代替施設等の安全管理に関する科目

受講者：甲高彩華 第1種放射線取扱主任者

＜生体情報・RI 実験部門の設備・機器を利用される方へ＞

当部門の設備・機器を利用される方には、年度初めに分野毎に利用者登録をお願いしています。利用者登録に必要な申請用紙は、部門ウェブサイト上生体情報・RI 実験部門 HP (<https://www.med.shimane-u.ac.jp/CRLHP/index.html>) に電子ファイル (Word 文書、pdf ファイル) として用意されています。該当する分野の利用申請用紙を HP 上の「各種申請書ダウンロード」よりダウンロードして必要事項を記入の上、各分野の担当者へ印刷紙でご提出下さい。

高速超遠心機や高圧滅菌装置など一部の実験機器においては、初めて利用する方には必ず分野内の担当職員から操作方法の指導を受けていただくようにルールが定められています。

危険防止と快適な実験室環境を保つために、実験機器の取り扱い上の注意事項を遵守して、安全な取り扱いに十分留意していただくようにお願いします。

また、使用済みの溶液などは放置せず必ず持ち帰って下さい。特に毒物・劇物に指定されている化学物質の使用に際しては、安全管理のために定められたルールに従って取り扱うようにご注意ください。

機器を利用する際には、必ず各機器指定の使用簿に必要な事項を記入して下さい。一部の機器においては利用料金の負担をお願いしています。利用料金は四半期毎に各分野別に集計し、利用者の所属する講座等へ会計課を通して共通経費執行済額通知書が送られますので、講座等の経費からお支払いいただきます。

＜共同利用機器の制御用パソコンを安全に使用するために＞

部門に整備されている機器の多くには制御用パソコンが備えられています。機器を操作するためのパソコンでは、機器の操作に必要なプログラム以外は絶対に実行しないようお願いします。測定機器のメンテナンス、解析ツールの更新、パソコンの機能追加・変更などが必要な場合は、必ず担当職員にお問い合わせ下さい。

測定機器のパソコン HD に保存された計測データファイルの持ち出しに、USB フラッシュメモリ等の取り外し可能な外部記憶装置を使用する場合は、前もって利用者の責任において必ずウイルス検知・駆除ツールを用いて、安全性が確認された記憶装置をお使い下さい。

パソコンの動作がおかしい？ と思われた場合は、できる限り現状を保存して、担当職員へお知らせいただくようお願いします。

＜オンラインによる機器予約システムについて＞

生体情報・RI 実験部門に設置されている多くの機器は共同でご利用いただくため、一部の機器に関しては予約のための「オンライン機器予約システム (<https://www.med.shimane-u.ac.jp/CRLHP/reservation.html>)」を導入しています。予約システムにて予約必要な機器の確認をお願いします。なお、「オンライン機器予約システム」へのログインにはユーザーID とパスワードの入力が必要です。登録に関しては、原技術職員 (内線 3061) まで問い合わせ下さい。また、退職等により予約システムの使用が不必要となる場合もご連絡ください。登録を解除します。

＜部門運営等に関する問い合わせ窓口＞

- ① 【松本健一】 e-mail : matumoto@med.shimane-u.ac.jp
電話 : 0853-20-2248 (内線 : 2248)
- ② 【堺弘道】 e-mail : hisakai@med.shimane-u.ac.jp
電話 : 0853-20-2524 (内線 : 2524)

お気軽にお問い合わせください。

◇ 物質機能分析部門 ◇

【行事報告 & お知らせ】

1. 松江キャンパス「寒剤（液体窒素，液体ヘリウム）の安全な取り扱い方」講習会の実施について
2. その他の機器の利用説明会および利用講習会の実施について
 - 1) 核磁気共鳴装置（JNM-ECZL500）利用講習会
 - 2) 磁気特性計測システム（MPMS3）利用説明会
 - 3) 走査型電子顕微鏡と X 線回折装置の利用講習会

1. 松江キャンパス「寒剤（液体窒素，液体ヘリウム）の安全な取り扱い方」講習会の実施について

当部門は低温実験環境の維持・管理を一つの大きな業務としており、液体窒素などの寒剤を扱う教員・大学院生・学部学生等の皆様を対象として「寒剤の安全な取り扱い方」講習会を実施しております。

寒剤は製造や貯蔵等を法律で規制されている高圧ガスであり、扱い方を誤れば重大事故が発生する危険な物質です。寒剤による事故を防止するには、日頃寒剤を扱う方々に、正しい知識による十分な注意をお願いするしかありません。4 月末にご案内致しましたので、すでに受講された方も多いと思いますが、Moodle を使用したオンデマンド講習を実施中です。開講期間は限定しませんので、本学で研究を行っている教職員・学生の方で、新規に寒剤（液体窒素・液体ヘリウム）を取り扱う必要が生じた時点で随時受講していただければと思います。

島根大学 Moodle（2025 年度版）

コース名： 松江キャンパス「寒剤（液体窒素・ヘリウム）の安全な取り扱い方」講習

URL： https://moodle.cerd.shimane-u.ac.jp/moodle_2025/course/view.php?id=1388

登録キー： kanzai2025

対 象： 本学で初めて寒剤を扱う教員・大学院生・学部学生他

内 容： 計 40 分のビデオ教材（9～16 分のもの 3 編）

上記 URL に直接アクセスしていただき、求めに応じて、皆様の ID、パスワード、講習の登録キーを入力していただければ受講できるようになっております。ご指導の学生の方等に必要に応じてご案内ください。どうぞよろしくお願い致します。

2. その他の機器の利用説明会および利用講習会の実施について

1) 核磁気共鳴装置 (JNM-ECZL500) 利用講習会

低温物性計測機器室 (総合理工学部 1 号館 109 室) に最新の核磁気共鳴装置が設置されました。4 月より本格的な共同利用が始まっており、総合理工学部、生物資源科学部、材料エネルギー学部 の 83 名の方に利用登録いただいています。これまでに 3 回の利用講習会を実施致しました。

3 月 18 日(火)

① 10 : 00 ~ 参加者 14 名

② 13 : 30 ~ 参加者 12 名

6 月 16 日(月)

③ 10 : 25 ~ 参加者 10 名

この講習会では液体試料の NMR 測定の基礎的な手法を学ぶとともに、実際の操作も体験していただき、安全確実に測定していただけるよう指導しています。講習会は必要に応じて随時開催して参ります。

また本装置では 固体専用プローブを装填することで、固体 NMR の測定も可能となりました。こちらは依頼測定のみとなっています。ご興味のある方は西郡までお問い合わせください。

電話 : 0852-32-6405 (内線 6116)、email : shijo@riko.shimane-u.ac.jp

2) 磁気特性計測システム (MPMS3) 利用説明会

低温物性計測機器室に設置している磁気特性計測システムについて、装置の概要、どのような測定が可能なのか、安全対策などに関する利用説明会を開催しました。

6 月 18 日(水) 総合理工学部 521 室

15 : 00 ~ 参加者 21 名

説明会は随時開催致します。西郡までお問い合わせください。

電話 : 0852-32-6405 (内線 6116)、email : shijo@riko.shimane-u.ac.jp

3) 走査型電子顕微鏡と X 線回折装置の利用講習会

以前は年一回実施していた利用講習会ですが、一斉講習では「予定が合わない」、「利用開始時期と乖離する」などの不便な点がありましたので、現在は依頼を受けて個別に講習を行っています。

※装置の概要

・走査型電子顕微鏡 日本電子 JSM-7001FA

(設置場所：総合理工大学院棟 1 階 106 室)

高分解能観察を可能にするフィールドエミッション型の電子銃を備えた走査型電子顕微鏡です。主に金属などの導体試料向けですが、コーティングなどの処置を施すことにより不導体や半導体試料の観察も可能です。ただし、試料は高真空中でガス等を放出しないものに限ります。卓上電子顕微鏡では難しい高分解能観察や様々な像モードでの観察ができます。二次電子検出器以外に、反射電子検出器と透過電子検出器を備えます。

・X 線回折装置 SmartLab

(設置場所：材料エネルギー学部棟 1 階 107 室)

ヨハンソン型モノクロメーターと 1 次元型高速検出器により Cu-K α 1 単色の高分解能測定が可能で、主に粉末試料の定性・定量解析に用います。バルク試料もある程度の平滑部があれば測定可能です。K α 2 除去が不要となるため複雑な構造や複相材料でピーク位置が近いときに特に有用です。室温より高温域のみですが温度変化試験も可能です。ただし、試料の反応性が十分低いことなど多くの制限がありますのでまずはお問い合わせください。

・X 線回折装置 Rint Rapid II

(設置場所：材料エネルギー学部棟 1 階 107 室)

大面積のイメージングプレートにより広範囲の回折情報を一回の撮影で取得できます。小径コリメーターを用いれば微小領域を指定して測定可能です。ただし、単結晶を用いた高精度構造解析はできません。ミリメートルオーダーで場所を指定しながら回折情報を取得できる点が最大の特徴となります。例えば、試料のある部分をカメラで指定しながら回折図形を取得できます。また大面積の二次元検出器を用いることから、照射範囲に数個以下の結晶粒しかない場合でも測定ができます。

本年度は以下の講習会を実施済みです。

5 月 27 日(火) X 線回折装置 (SmartLab) 利用講習会

講習会や各装置に関するお問い合わせは下記の連絡先(林)までお気軽にお問い合わせください。講習とは関係ないお問い合わせも歓迎しております。できるかぎり具体的にお答えいたします。

電話：0852-32-6122 (内線 3060)、email：thayashi@riko.shimane-u.ac.jp

< 島根大学研究・学術情報本部総合科学研究支援センター >
センター通信 第 49 号 (2025 年 7 月)

◇ 編集後記 ◇

総合科学研究支援センター広報誌「センター通信」第 49 号を発行しました。
センター通信を通じて、有意義な情報発信ができるよう努めたいと思います。
誌面の充実のために、学内の技術や装置の紹介など、幅広い範囲の話題を募集しています。掲載をご希望の方は、下記の編集担当までお問い合わせください。
「センター通信」の編集には多くの方々のご協力をいただきました。
ここに厚く御礼申し上げます。

2025 年 7 月

編集担当: 蜂谷 卓士

総合科学研究支援センター 遺伝子機能解析部門

問い合わせ先メールアドレス: takushi.hachiya@life.shimane-u.ac.jp